

「会社を辞めて独立開業を目指す」——。これはビジネスパーソンなら、誰でも一度は考えたことがある夢の一つかもしれません。

最近の経済産業省の政策をみても、創業支援策を強化していることは事実です。これから事業を興そうと考えている個人にとっては、追い風が吹いているといってもいいでしょう。

ところが、早期退職優遇制度を利用して独立はしたものの、事業に失敗した元上司や同僚などの話を伝え聞き、やはり、自分には独立は無理なのではないかと不安を覚える方も多いのではないのでしょうか。

もちろん、独立して成功を収めるためには、開業後の創意工夫や絶え間ない努力が必要です。しかし、独立開業までに、「何を」「どのように」すべきなのか、これを疎かにしたばかりに、せっかくの成功の芽を摘んでしまっていることが多いのも事実です。

「備えあれば憂いなし」とは言い古された言葉ですが、独立した後に「憂い」を持たぬよう、その準備段階で、しっかりと「備える」ことが何よりも大切です。

こうした観点から、本書は、読者の皆さんが独立開業の準備段階でなすべきことを、より具体的に、より効率的に学習できるよう執筆いたしました。

リストラの波は、今後もビジネス社会に生きる人々に否応なく押し寄せることでしょう。本書を手にした皆さんに、少しでも独立開業を目指すお気持ちがあるのならば、まずは本書で独立開業の疑似体験をされることをお勧めいたします。

2002年冬

中小企業診断士 高橋英明

プロローグ

本書を購入された皆さんは、「独立開業」の4文字がこれからの人生の選択肢のひとつであるとの想いを強く持っていらっしゃることでしょ。それにはいろいろな理由が想定できます。

「今は会社に勤めているが、もともと独立開業するつもりであった」
「会社の早期退職優遇制度が明らかになった。ちょうどいいタイミングなので独立開業という人生のカードを選んでみよう」

「会社の業況がここ数年芳しくなく、近々大規模なリストラが行われそう。この年齢での再就職は難しい。どうやら自分は独立開業に向かうしか道はない」等々です。

このように、積極的な理由であれ、消極的な理由であれ、独立開業を目指すからには、何としてもそれを成功させなければなりません。それには押さえるべき要点があるはず。もちろん皆さんは、成功の要因を知るために本書を購入されたわけ。将来の独立開業を成功させるための第一歩として、それは正しい行為であったという自信を持ってください。

独立開業を成功させるための基本的事項が3つありますので、ここで確認しておきましょう。

1. 必ず成功するという信念を持つ

ある会社をリストラされた45歳の元課長氏が、再就職活動で面接を受けたときの会話です。

「あなたはこの会社で何ができるとお考えですか？」

「はい、私は課長ができます」

極めてユニークな回答であり、20年余の会社生活が言わしめた台詞なのでしょう。むろん彼が課長職たるものを熟知しており、採用

する側もそれを期待しているのであれば、需要と供給が一致するはずです。しかし、結果は不採用でした。

面接官の質問である「何」に対して、元課長氏は社会人としての人生を振り返り、もっとも華やかであった課長時代を思い浮かべ、思わず「課長」と答えたことが致命傷となったのです。これを読まれて皆さんは「何て馬鹿な奴だ！」と思われるかもしれません。

では、皆さんは、次の質問にどのように回答されるでしょうか。「これまで会社生活を続けてきたあなたは、本当に独立開業で成功するとお考えですか？」

どうですか？ 自信を持って「はい」と答えられますか？ 独立開業は、まず自分を信じることから始まります。

2. 目の前の問題をひとつずつ確実に解決していく

既存企業の新規事業開発でもそうでしょうし、ベンチャーの創業でもそうなのですが、何か新しいビジネスを始めるには、必ず事業計画書を作成します。事業計画書とは、その新しいビジネスが成功したのか失敗したのかを推し量るための基準です。当然のことながら事業計画書には、予想売上高や利益額などが明記されます。皆さんの目指す独立開業も、新しいビジネスの立ち上げに他なりません。であれば事業計画書をきちんと作成し、しかるべく後にその結果を分析し、成否の判断を行うことになります。

独立開業を目指す皆さんに、注文があります。それは、どんなに困難に思える問題であっても、漠然とした不安などは抱かずに、慌てないで目の前の問題や課題をひとつずつ確実に解決していくことが重要だということです。先ほどのような意地悪な質問に対して、決して怯む^{ひる}ことなく、冷静に、論理的に考えて対処することが肝心

なのです。この精神を忘れないでください。

3. 独立開業までのステップを意識する

ところで「成功」とは一体何を意味するのでしょうか？ 辞書には「仕上げようと思ったとおりに出来上がること。最初の目的どおりに、富や社会的地位を得ること」とあります。

成功という言葉の意味を正しく理解することが、皆さんの独立開業の第一歩です。次の一步は、独立開業までの道程をイメージすることです。次の図をご覧ください。これには時間軸が用意されていません。最初の段階から開業までを1年ととらえても結構ですし、半年としても結構です。まずはこのステップを理解し、「いま自分はどの段階を歩んでいるのだろうか？」という感覚を常に持ち続けてください。今から1週間で本書を読んでいただきます。独立開業とはどういうものなのかを実感してください。

